

今年度はこんな事業を行いました。

10月5日(土) 映画会「バトル・オブ・ザ・セクシーズ」

1973年に実際に行われた、女と男の白熱のテストマッチを描いた映画「バトル・オブ・ザ・セクシーズ」を上映し、316人が来場しました。

参加者の感想「感動した」「自分も頑張ろうと思った」「感銘を受けた」「人は変わることが分かった」

10月30日(水) イクボス研修&イクボス宣言

本誌内側左下欄をご覧ください。

11月10日(日) 文化産業まつり

男女共同参画パネルを掲示し、339人の方にアンケートに答えていただきました。

参加者の感想「勉強になった」「日本は他国に比べて遅れていて驚いた」「適材適所が良いと思った」

11月27日(水) LGBT 職員研修

町職員を対象に実施し、37人が参加しました。講師を務めた椋山女学園大学の藤原直子教授は「性的指向・性自認は多様なもの。先入観や偏見をもたず、当事者に対応することが重要です」と話しました。

12月21日(土) LGBT 町民セミナー

本誌内側中央をご覧ください。

2月3日(月)、17日(月)、25日(火) 女性活躍推進講座

女性が仕事、家庭、趣味など自分が望む分野で自分らしく輝くヒントを学ぶ女性向け講座を3日間開催し、延べ49人が参加しました。

参加者の感想「前向きになれた」「自分を知る良い機会になった」「人生観が変わった」「目標が持てた」

※**セクシュアル・マイノリティ**
LGBTQ等の性的少数者のこと。

※**ダイバーシティ**
性別や人種、年齢、性格、学歴、価値観など多様性を受け入れ、互いの個性を認め、活かすあおうとする考え方や姿勢。

用語説明

※LGBTQ

レズビアン ゲイ バイセクシュアル トランスジェンダー クエスチョニング
Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Questioning
の頭文字をとった、性的少数者(セクシュアル・マイノリティ)の総称の一つ。

相談窓口

※祝日、年末年始は休みです。

東郷町役場

人権相談 毎月第1水曜 13:00~15:00
いじめ、差別など人権全般に関する相談
.....地域協働課 ☎0561-56-0727

女性悩みごと相談 毎月第2・第4木曜 10:00~15:30
配偶者からの暴力など、女性福祉に関する相談(電話相談可)
.....子育て応援課 ☎0561-56-0736 ※要事前予約

からだ・こころの健康相談 毎週月曜 9:00~12:00
.....健康推進課 ☎0561-37-5813 (電話相談可)

法務局(人権に関わる相談窓口)

毎週月~金曜 8:30~17:15 (☎のみ 9:00~17:00)
①名古屋法務局人権擁護部... ☎052-952-8111 ②みんなの人権 110番... ☎0570-003-110
③子どもの人権 110番... ☎0120-007-110 ④女性の人権ホットライン... ☎0570-070-810
⑤外国語人権相談ダイヤル(英語、中国語、韓国語、フィリピン語、ポルトガル語、ベトナム語)... ☎0570-090-911

愛知県

女性相談員による相談 ※相談は女性のみ
毎週月~金曜 9:00~21:00、土・日曜 9:00~16:00
.....☎052-962-2527 (専用ダイヤル)

弁護士による専門相談 ※相談は女性のみ
毎週月曜 14:00~15:30 (第1・3・5月曜は女性弁護士が対応)
DV被害者に弁護士が電話でアドバイスします。
.....☎052-962-2528 (専用ダイヤル)

男性DV被害者ホットライン ※相談は男性のみ
毎週土曜 13:00~16:00 (第5土曜は除く)
男性の臨床心理士が相談に応じます。
.....☎080-1555-3055 (専用ダイヤル)

東郷町男女共同参画情報誌



2020
vol. 9

特集

対談「教育現場におけるジェンダー平等について」

男女共同参画社会とは

「男らしさ」「女らしさ」のイメージや考え方にとらわれず、一人ひとりの個性と能力が発揮できる社会



「女だから〇〇」「男だから〇〇」というように、性別を理由に私たちの行動や思考が制限されない社会

男女共同参画社会を実現するために

家庭では

家事、子育て、介護などを家族で協力してできるといいですね。



学校では

性別にとらわれず、一人ひとりの個性を生かしていいですね。



地域では

女性の自治会長が増えるなど、地域の活動に男女ともに参画できるといいですね。



職場では

管理職割合の男女差や長時間労働がなくなるいいですね。



対談 教育現場におけるジェンダー平等について



2つのキーワード

- 男女共同参画
- 多様性の尊重

キーワード1 教育現場における男女共同参画

樋口：女の子の水色ランドセルが珍しい時代は終わりましたね。
 中林：女の子は赤、男の子は黒と決めつけないでと言っていたことが嘘のようですが、まだデザイン等は男女で違いが見られますよね。
 谷：教育現場では、徐々に男女平等になってきていると思いますが、高等教育、つまり大学等は、まだまだのようですね。
 中林：医学部の入試における女性への差別的な扱いなどですよね。幼い頃の教育のみならず、高等教育においても性別に関わりなく、本人の望む教育が受けられるようになるといいですね。

キーワード2 教育現場における多様性の尊重

谷：現在の教育現場においては、男女差別の防止に留まらず、LGBTQのようなセクシュアル・マイノリティの子どもたちへの配慮も求められています。
 中林：更に性に関わるだけでなく、人種や障がいの有無による差別もなくなるといいですね。



対談者

- ・東郷町男女共同参画審議会 会長 中林 久子
平成 20 年から東郷町男女共同参画推進協議会委員を務める。
平成 23 年から東郷町男女共同参画審議会会長を務める。
- ・東郷町男女共同参画審議会委員 谷 直衛
平成 28 年から東郷町男女共同参画審議会委員を務める。
平成 20 年から 28 年まで東郷町教育長を務める。
- ・東郷町 教育部長 樋口 美紀
昭和 62 年に東郷町役場入庁。平成 31 年 4 月から現職。



樋口：現在の教育現場が抱える課題は、人権の尊重や男女共同参画など多種多様であり、きめ細やかな対応が求められています。本町では、子どもそれぞれが持っている力を尊重しながら、子どもたちの個性を伸ばしています。そして、社会が「男は、女は、こうあるべき」といった性別役割分担を押しつけないことが大切です。
 谷：私たちの目標は、多様性の尊重を意味している、ダイバーシティを推進することですね。
 中林：すべての人が差別されることのない社会を実現することは、男女共同参画社会の実現につながりますね。

県内町村で初めて

イクボス研修・イクボス宣言を行いました。

10月30日、イクボス研修を行い、町長など町職員と町内企業の代表者の50人が参加しました。参加者はイクボス提唱者のNPO法人ファザーリングジャパン代表理事の安藤哲也氏による研修を受けた後、安藤氏立ち合いのもと、イクボス宣言を行いました。

イクボス宣言書の内容(要約)

「共に働く職員のワーク・ライフ・バランスの実現やキャリア形成を応援するとともに、より質の高い仕事をチームで行い、自らも仕事と私生活を楽しむ『イクボス』になることを誓います。」

- 【取組事項】・チームワークで業務を遂行します
- ・効率的な仕事の改善を行います等



町内企業の(株)喜多村が県から表彰されました。

平成 31 年 2 月、町内企業の(株)喜多村が、県の「ファミリー・フレンドリー企業奨励賞」を受賞しました。

県では、従業員のワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む企業を「愛知県ファミリー・フレンドリー企業」として登録しており、その中から、他の模範となる優れた取組を実施している企業を平成 19 年度から毎年知事が表彰しています。

(株)喜多村は、過去 3 年連続で 8 割を超える年次有給休暇の取得を実現したことや、男性社員に対して育児休業の取得を推奨し、平成 28～29 年度に 2 人が育休を取得したことなどが評価され、表彰されました。



町民LGBTセミナーを開催しました。

12月21日、性の多様性について考えるLGBT町内セミナーを開催しました。

講師のNPO法人ASTA代表理事松岡成子氏からLGBTの基礎知識についてご講義いただき、性のあり方やLGBTの現状、性的マイノリティを含めた全ての違いに対して味方でいられる人「ALLY」について、理解を深めました。グループワークも行い、複数のLGBTの方と実際に対話をする中で性的マイノリティについて考える機会となりました。

講座には町民30人が参加し、「LGBTの方の生の声を聞くことができ貴重な体験ができた」「今まで無意識に差別的な考えをしていたことに気付かされた」などの感想がありました。



おすすめ図書

女の子が生きていくときに、覚えていてほしいこと

西原 理恵子

ベストセラー26万部突破！「王子様を待たないで。お寿司も指輪も自分で買おう」——胸にすとんと落ちるメッセージは、血の通った経験則にもとづく幸せの極意。

これからの時代を自立的に生きるための気づきが満載です。

(参照：KADO KAWA ホームページ)



役場1階の男女共同参画図書コーナーの書籍です。地域協働課で借りられます。

僕たちのカラフルな毎日 ～弁護士夫婦の波瀾万丈奮闘記～

南 和行、吉田 昌史

大阪で法律事務所を営む「弁護士夫婦」の出会いからこれまでの歩みを、ユーモアたっぷりに綴ったエッセイ。LGBTをより理解するための副読本として、あるいは、ひとつの純粋なラブストーリーとして楽しめる一冊です。

(参照：旅と暮らしの出版社ホームページ)

